

平成 24 年 11 月

各 位

第 18 回 FD フォーラム企画検討委員会
委員長 木野 茂

公益財団法人 大学コンソーシアム京都
高等教育研究推進事業部

「第 18 回 FD フォーラム」の開催について(ご案内)

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、当財団の事業に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当財団では、大学教育の質の向上を目的とした FD 活動を行っており、その中核的取り組みとして、「FD フォーラム」を継続的に開催してまいりました。

今年度は、「学生が主体的に学ぶ力を身につけるには」を総合テーマとし、2013 年 2 月 23 日(土)～2 月 24 日(日)に立命館大学衣笠キャンパスを会場として「第 18 回 FD フォーラム」を開催する運びとなりました。

つきましては、「第 18 回 FD フォーラム」リーフレットおよびポスターを送付させていただきますので、当該関係者へ周知・広報にご協力受け賜りますよう、よろしく願いいたします。

なお、送付部数等に不足がございましたら、事務局までお申し付け下さい。

今後とも、ご指導・ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願いいたします。

敬具

【送付書類】

- ・「第 18 回 FD フォーラム」リーフレット
- ・「第 18 回 FD フォーラム」ポスター

なお、参加費は事前払込制とさせていただきます。申込手続きにつきましては、専用のインターネットホームページを開設しますので、期日内に申し込み手続きをお済ませください。

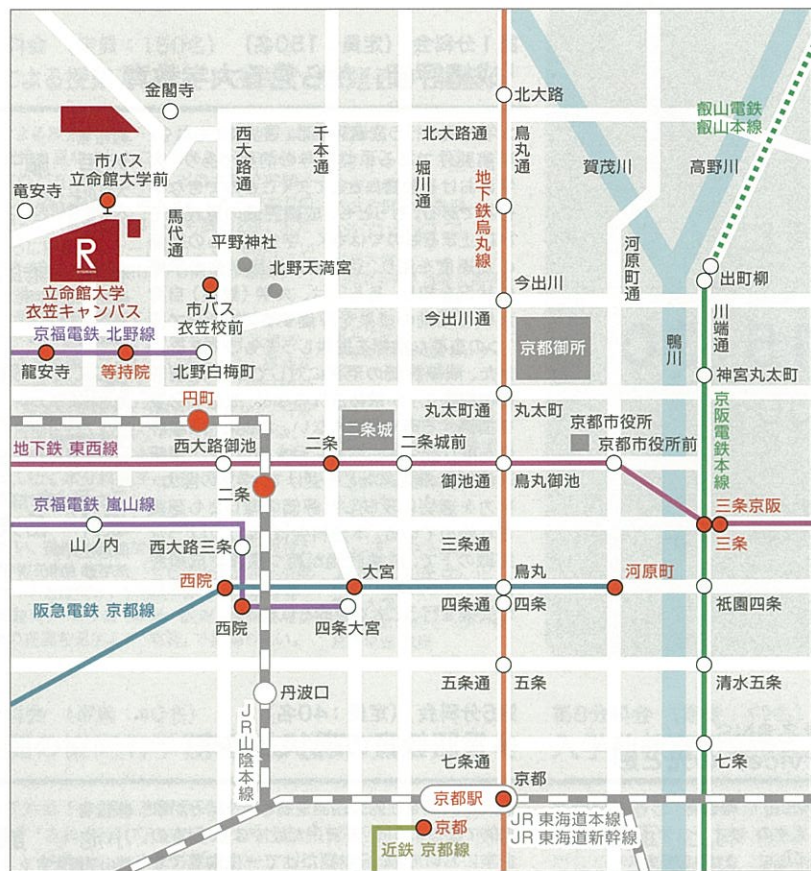
その他、リーフレット記載内容に変更等の異動が生じた場合には、ホームページ上にて情報共有いたしますので、下記 URL の情報を併せてご参照願います。

公益財団法人 大学コンソーシアム京都ホームページ

<<http://www.consortium.or.jp>>

【本件に関するお問い合わせ先】

公益財団法人大学コンソーシアム京都 FD フォーラム事務局
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下るキャンパスプラザ京都
TEL : 075-353-9163 FAX : 075-353-9101
E-mail : fdf@consortium.or.jp



JR・近鉄 京都駅 (丸太中央口)	市バス 50 (京都駅 B2 のりば)	立命館大学前(終点)	約 50 分
	市バス 205 (京都駅 B3 のりば)	衣笠校前	徒歩 約 10 分
JR 阪急 西院駅	JR バス 高雄・京北線 (京都駅 JR3 番のりば)	立命館大学前	約 30 分
	市バス 205	衣笠校前	徒歩 約 10 分
阪急 西院駅	市バス 26	等持院道	徒歩 約 10 分
	京福電鉄 嵐山本線・北野線	龍安寺駅	徒歩 約 6 分
阪急 大宮駅	市バス 55	立命館大学前(終点)	約 20 分
	市バス 15	立命館大学前(終点)	約 30 分
京阪 三条駅	市バス 59	立命館大学前	約 30 分
	市バス 15 55	立命館大学前(終点)	約 15 分
JR・地下鉄 二条駅	市バス 15	立命館大学前(終点)	約 10 分
	市バス 204 205	衣笠校前	徒歩 約 10 分

立命館大学
衣笠キャンパス

2012年度 第18回FDフォーラム

学生が**主体的**に学ぶ力を身につけるには

2013年2月23日(土)・24日(日) 会場:立命館大学衣笠キャンパス



<テーマ>

学生が主体的に学ぶ力を身につけるには

現在の大学教育改革は1991年の大学設置基準の大綱化によって始まったが、当初は教養課程の廃止やセメスター制など教育システムの改革が中心であった。その後、FDが強調されるようになり、授業改善の取り組みが広がったが、実際にはシラバスの充実や授業アンケートの実施と教員自身による授業方法の工夫にとどまっていた。

FDは2008年に義務化されたが、多くの大学では従来のFDを踏襲している感が強い。しかし、FDの義務化以後、「学生の主体的な学び」というキーワードが中教審（2008年答申、2012年答申）や文科省（2012年大学改革実行プラン）の文書に登場し、大学教育の質的転換が謳われるようになった。

一方、大学コンソーシアム京都では、1995年以来FDフォーラムを開催してきたが、当初より学生の学びの向上を目標にしてシンポジウムを開催しており、学生の主体的な学びを引き出す取り組みも何度か取り上げてきた。そこで今回は「学生が主体的に学ぶ力を身につけるには」を統一テーマとし、これまでのFDフォーラムの成果を引き継ぐとともに、さらに一步を踏み出すべく、以下の二つの切り口について参加者ととも考えてみたい。

一つは「主体的な学びを支える仕組み」であり、もう一つは「学生とともに進めるFD」についてである。

当日タイムスケジュール

	時間	内容	場所
2月23日(土)	12:00~13:00	受付	以学館
	13:00~17:10	シンポジウム①	以学館1号ホール
		シンポジウム②	以学館2号ホール
	17:30~19:00	情報交換会	諒友館 食堂
2月24日(日)	9:00~10:00	受付	敬学館
	10:00~12:00	分科会【前半】※1)	
	12:00~13:30	昼休憩・ポスターセッションコアタイム※2)	
	13:30~15:30	分科会【後半】	

※1) 申込された分科会以外には参加することはできませんのでご注意ください。前半と後半は同じ分科会に参加していただけます。
 ※2) ポスターセッションは2日目の10:00~15:30に開場しております。コアタイムには、発表者がポスター前で参加者からの質問に答えます。

申込方法

申込みから当日参加までの流れ

STEP 1 お申込み(先着順)

申込み手続き完了後は、参加分科会の変更はできませんのでご注意ください。

①右下のURLから、「メールアドレス確認フォーム」にアクセスし、メールアドレスを入力・送信してください。

②送信いただいたメールアドレスに「参加申込フォーム」のURLをお送りします。

③記載のURLにアクセスし、画面の指示に従って申込み手続きを行ってください。

※「参加申込みフォーム」のURLの通知メールが届かない場合は、メールアドレス誤入力等の可能性がございます。その場合はお手数ですが「メールアドレス確認フォーム」にメールアドレスを再入力・再送信してください。

※2012年12月18日(火)~26日(水)は、大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の優先申込期間となっております。この期間は、加盟大学・短期大学以外の方はお申込みできませんので、予めご了承下さい。また、申込み手続き完了後の変更は一切受け付けられませんのでご注意ください。

なお、優先申込期間は、優先定員までの受付となります。

STEP 2 参加費のお支払い

参加費は事前の支払いとなっております

申込み手続きが完了した方には、後日、郵送にて払込票(請求書)をお送りいたしますので最寄りのコンビニエンスストアで参加費の支払いを行って下さい。取り扱い可能なコンビニエンスストアは同封している払込票の裏面をご覧ください。

なお、銀行・ゆうちょ銀行などの金融機関ではお支払いができませんのでご注意ください。

また、お申込み手続きと参加費のお支払いが完了していない方は参加できませんのでご注意ください。

【参加費支払締切:2013年2月5日(火) 24:00まで】

お支払いいただく参加費につきましては、印刷費、webシステム運営費、通信費など、諸準備に使用いたしますので、いかなる理由があっても返金等には応じられません。予めご了承下さい。参加費をお支払いいただいたのち、やむを得ずご欠席された方につきましては、後日、FDフォーラム関連資料を送付いたします。

STEP 3 参加証が届く

参加費の支払いが完了した方には参加証をメールにて送信します。2月16日(土)になっても参加証(メール)が届かない場合は、FDフォーラム事務局までお問い合わせ下さい。

STEP 4 当日

当日はプリントアウトした参加証(メール)を持参し、受付にて提示して下さい。
 ※代理の方が参加される場合は当日の受付にてお申し出下さい。

申込期間

2013年1月8日[火]~1月24日[木]

【参加費支払締切:2013年2月5日(火) 24:00まで】

加盟大学・短期大学 優先申込期間

2012年12月18日(火)~12月26日(水)

優先申込期間後も1月24日(木)まではお申込みいただけます。

※大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の教職員・学生の方を対象に、優先申込期間を設けています。

加盟校以外の方は、1月8日以降にお申込下さい。

なお、優先申込期間は、優先定員までの受付となります。

当日申込みは、一切受け付けできませんので、ご注意ください。
シンポジウム・分科会ともに、1つしか申込できません。

参加費

所属	区分	情報交換会含む	情報交換会除く
加盟 大学・短期大学	教職員	5,000円	3,000円
	学生	1,000円	無料
非加盟 大学・短期大学等	教職員、一般	7,000円	5,000円
	学生	2,000円	1,000円

第18回FDフォーラム企画検討ワーキング

- ★ 木野 茂 [立命館大学 共通教育推進機構 教授]
- ☆ 長谷川 岳史 [龍谷大学 経営学部 教授/大学教育開発センター長]
- 遠藤 央 [京都文教大学 総合社会学部 教授]
- 尾崎 タイヨ [京都学園大学 経済学部 教授]
- 葛城 大介 [京都薬科大学 数学分野 准教授]
- 河原 宣子 [京都橘大学 看護学部 教授]
- 坂井 岳夫 [同志社大学 法学部 助教]
- 高橋 伸一 [京都精華大学 人文学部 教授/共通教育センター長]
- 西村 美紀 [大谷大学短期大学部 講師]
- 畑田 彩 [京都外国語大学 外国語学部 講師]
- 林 悠子 [佛教大学 社会福祉学部 講師]
- 坂本 尚志 [京都大学 高等教育研究開発推進センター 特定助教]
- 廣瀬 直哉 [京都ノートルダム女子大学 心理学部 准教授]
- 耳野 健二 [京都産業大学 法学部 教授]
- 村田 利裕 [京都教育大学 教育学部 教授]

★…委員長 ☆…副委員長

URL(アドレス)

<https://event.consortium.or.jp/fd18/>
 もしくは

大学コンソーシアム京都

検索

シンポジウム①

以学館1号ホール(定員:550名) 13:00~17:10(受付開始12:00~)

主体的な学びを支える仕組み

FDの義務化以降、「学生の主体的な学び」というキーワードは、中教審や文部科学省の文書(2008年答申、2012年答申、2012年大学改革実行プラン)に登場し、大学教育の質的転換が謳われるようになった。

「主体的な学びの確立」・「主体的に考える力の育成」という教育的課題の重要性については、その手法の多様性や学問分野の特性、学生個人の資質に応じたバリエーション等を配慮すれば、特に異論のないところであろう。しかし、それをいざ大学教育の現場で実現するとすると、教授法、カリキュラム編成、アセスメント、教員組織、学修支援環境などの様々な点で、主体的な学びを支える「仕組み」を有機的に作り上げていくことが必要になる。

本シンポジウムでは、主体的な学びの土壌である「仕組み」作りやそのマネジメントに精通した3名の方をシンポジストとしてお招きした。中等教育の視座も踏まえながら、フロア参加者の皆さんが、それぞれの教育現場で「主体的な学び」の可能性を模索できるような機会にしたい。

シンポジスト



濱名 篤氏

学校法人演名学院 理事長・関西国際大学 学長
1987年上智大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得。博士(社会学)
1995年学校法人演名学院理事、2004年関西国際大学副学長を経て、2005年より現職。

【専門領域】
教育社会学、高等教育論
【主な活動や著書】
文部科学省中央教育審議会臨時委員・専門委員、文部科学省学校法人運営調査委員、国立教育政策研究所評議員、大学コンソーシアムひょうご神戸理事長等を務める。
『初年次教育—歴史・理論・実践と世界の動向』丸善 2006年11月
『知識伝達の構造』世界思想社 2008年3月



荒瀬 克己氏

京都市教育委員会 教育企画監
1953年京都府生まれ。京都教育大学国文学科卒業後、京都市立伏見工業高校・堀川高校の国語科教諭、京都市教育委員会指導主事を経て、1998年4月堀川高等学校教頭、2003年4月同校長。2012年4月から現職。同年8月から関西国際大学客員教授。

【主な活動や著書】
2005年以降、中央教育審議会初等中等教育分科会、大学分科会「高等学校と大学との接続に関するワーキンググループ」、教職大学院特別審査会、文部科学省言語育成協力者会議等の委員、高等学校学習指導要領「総合的な学習の時間編」作成協力者や、全国都市立高等学校長会、京都市立高等学校長会、京都教育大学附属高等学校・学校評議員、立命館小学校・学校評議員等を歴任。
2007年10月、NHK番組「プロフェッショナル仕事の流儀」で「背伸びが人を育てる」校長・荒瀬克己氏として放送された。
著書に『奇跡と呼ばれた学校』(朝日新書2007年1月)、『子どもが自立する学校』(共著、青灯社2011年1月)がある。



福田 直史氏

高知工科大学 総務部長
関西の私立大学で8年間入試・広報・将来計画業務に携わり、2000年、高知工科大学に着任。2008年マネジメント学部開設、2009年工学部再編、同年、日本初の私立大学から公立大学法人への移行業務等を担当。入試部長、企画広報部長等を経て、2010年から現職。



コーディネーター



高橋 伸一氏

京都精華大学 人文学部 教授 共通教育センター長
ウォリック大学大学院翻訳専攻修士課程修了、千葉大学大学院社会文化科学研究科博士課程修了(博士(文学))。2007年より人文学部教授。

【専門領域】
比較文学、初年次教育
【主な活動や著書】
京都精華大学では、教務部長(2004年~2008年)、評議員(2005年~2011年)、共通教育センター長(2009年~)などを務め、主に教務・教学的観点から大学教育改革にかかわる。2004年より大学コンソーシアム京都FDフォーラム企画検討委員として、FD活動に従事する。主な著作『マンガFDハンドブック【新任教員編】』、『マンガFDハンドブック【成績評価編】』(いずれも、共編著・京都FD開発推進センター)など。

シンポジウム②

以学館2号ホール(定員:300名) 13:00~17:10(受付開始12:00~)

学生とともにすすめるFD

大学教育の質的転換が学生の主体的な学びの確立を目指すものであるなら、その実現に向けて取り組むべき大学の組織的な教育改善のためのFD活動の中にも、学生の主体的な取り組みが推進されるべきであろう。FDの義務化以後、このような学生によるFD活動を始めた大学が急激に増えていくが、FDを進める上で学生を単なる受益者としてではなく、FDにおいても一方の主体として捉え始めたという点で注目される。

そこでシンポジウム②では、この「学生とともにすすめるFD」を取り上げ、学生FD活動が特に盛んな関西の4大学から活動紹介をいただくとともに、参加者の皆さんには、途中で小グループに分かれていただき、学生FDスタッフと一緒に交流と議論をしていただく機会を設ける。学生FDスタッフとの対話を通じて、各大学においてより豊かなFD活動を模索する機会としていただけたら幸いである。

シンポジスト



木野 茂氏

立命館大学 共通教育推進機構 教授
1964年 大阪市立大学理学部物理学科 卒業
1966年 大阪市立大学大学院理学研究科修士課程 修了
同年より、大阪市立大学理学部教員
2003年 大阪市立大学・大学教育研究センターへ移籍、副所長
2005年 立命館大学教授、現在に至る(教養教育センター副センター長を兼務) 理学博士

【専門領域】
宇宙線物理学、環境学、大学教育学
【主な活動や著書】
学生主体型FD活動の推進
双方向型授業の開発
『新版 環境と人間—公書に学ぶ』(東京教育社/2001年4月)
『大学授業改善の手引き—双方向型授業への誘い』(ナカニシヤ書店/2005年2月)
『大学を変える、学生が変わる—学生FDガイドブック』(ナカニシヤ書店/2012年3月)



梅村 修氏

追手門学院大学 教育研究所 所長
1992年 慶応義塾大学 文学研究科 修士課程国文学専攻
帝京大学留学生別科日本語専攻 専任講師
2003年 追手門学院大学 文学部助教授
2009年 追手門学院大学 国際教養学部 教授
同・教育研究所長
2012年 追手門学院一貫連携教育機構長

【専門領域】
留学生教育、コミュニケーション論、広告論
【主な活動や著書】
『アート・マーケティング』白桃書房
『キャラクター総論—文化・商業・知財』白桃書房
『地域ブランドと広告—伝える流儀を学ぶ』雄飛野書院、ほか
2009年度から学生FD活動を支援を始める。2012年2月には、第5回目の学生FDサミットを主宰。



村山 孝道氏

京都文教大学 教務課 係長
FD委員会委員、FSDプロジェクトメンバー
1993年大正大学仏教学部仏教学科浄土学コース卒業
カナダでの語学留学を経て1995年に京都文教大学へ入職。
その後、教務課—総務(学長秘書)を経て現職

【専門領域】
ファシリテーション、リーダーシップ、プロジェクト・マネジメント
大学職員論、中小大学論、学生FD活動を通じたSDの促進「FSD型戦略的OJT」
【主な活動や著書】
2009年6月に学生、教員の有志とともに「大学を変える、学生と変える」FSDプロジェクトを立ち上げ、主にヒドゥンカリキュラム領域を中心に大学活性化に取り組む。正科においては、2010年より自校教育科目「京都文教入門」の改革を学生とともに進めている。
『大学を変える、学生が変わる—学生FDガイドブック』(ナカニシヤ書店/2012年3月)



山内 尚子氏

京都産業大学 学長室
2002年京都産業大学外国語学部卒業
2002年学校法人京都産業大学へ就職後、いくつかの部署を経て、2007年より2年間、大学コンソーシアム京都へ出向。
出向期間終了後、大学の職員派遣研修制度を活用し、2011年京都産業大学大学院マネジメント研究科修了
2011年より、教育支援研究開発センター事務室(現在の学長室)にて、FD・SDをはじめとする教育の質保証に係る業務を担当。

【専門領域】
組織学習論
【主な活動や著書】
2011年6月に学生FDスタッフ「燦(SAN)」を結成。
学生・教員・職員の枠を超えて本学について語り合う「京産共創プロジェクト」等、燦による企画イベントの運営支援や、学会発表・紀要への投稿原稿作成支援等、34名の学生たちの活動を支援している。
【燦の学生たちと共著、共同発表したもの】
・「共創風土を醸成する『燦presents「京産共創」プロジェクト』~学生を中心とした Organization Developmentの取組~」(『高等教育フォーラム』vol.2,2012) (共著)
・「マイケル・サンデル型授業で教員や学生がどう変わるか」(日本リメディアル教育学会第8回全国大会) (共同発表)

立命館大学 学生FDスタッフ 追手門学院大学 学生FDスタッフ 京都文教大学 FSDプロジェクトメンバー 京都産業大学 学生FDスタッフ

コーディネーター



耳野 健二氏

京都産業大学 法学部 教授・学長特命補佐
1990年 京都大学法学部卒業
1994年 京都大学法学部研究科博士課程中退
2007年 京都産業大学法学部教授
2012年 学長特命補佐
博士(法学)

【専門領域】
法学(近代ドイツの法思想)
【主な活動や著書】
著作として『サヴィニーの法思想』(1998年)、『サヴィニー「現代ローマ法体系」の「計画」について—遺稿に基づく若干の考察』(『産大法学』45巻3・4号(2012年))など。
FD関連の活動として、京都産業大学教育支援研究開発センター副センター長(2010-2012年)、大学コンソーシアム京都FDフォーラム企画検討ワーキング委員(2010年~現在、2011年度委員長)、日本私立大学連盟FD推進ワークショップ運営委員(2010年~現在)などがある。

